

1－8					
主題	学校でカフェを開き、地域の方との交流の輪を広げる				
副題	料理やレクリエーションを一緒に行うことで楽しく交流できる				
キーワード 1	地域の学校	キーワード 2	レクリエーション	研究(実践)期間	3ヶ月

法人名・事業所名	日本福祉教育専門学校 介護福祉学科
発表者（職種）	栗原幸太郎、中村颯
共同研究(実践)者	細野真代、宮里裕子

電 話	03-3982-2511	FAX	03-3982-5133
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 介護福祉学科 2年制の介護福祉養成校として留学生を迎え入れて6年。学科では、多国籍の留学生と日本人と一緒に介護について学んでいます。国籍、年齢関係なく仲良く交流しています。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

- ・学校の活動の中で、地域の方々と交流をする機会が少なかった。

学校の社会資源を地域の方々に還元できるよう、学生と地域交流の認知症カフェを実施する計画とした。

- ・学校所在地の豊島区と連携を図り、6年前より認知症カフェとして『Memoカフェ』を月1回開催していた。3年前よりコロナの影響で認知症カフェを開くことができなかったため、今年度より、下級生への引継ぎなどなく手探りでカフェの再開となった。

この3年の間で学校の状況も変わり、月1回土曜に開催していたが、土日の学生参加が難しく、平日の授業後の夕方開催とした。

- ・学生主体で開催しているが、役割が同じになっているため、地域の方々と交流できている学生と出来ていない学生がいる。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

（目的）

- ① 学校を地域のコミュニティの場とする
- ② 個々のコミュニケーション能力の向上

（仮説）

学校を地域のコミュニティの場とすることで、学生と地域の高齢者が繋がる役割を担うことができる。さらに、介護を学ぶ学生として必要なコミュニケーション能力の向上や、地域包括ケアシステムの中で生活支援としての役割担うことができ、地域支援に向けての考え方と実践方法を身につく事が期待できる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・日時を決め、チラシを作成して学校内、地域の掲示板、町内会の方々にチラシを配る。
- ・レク担当者は、脳トレーニングのレクやゲームを考え準備し、来ていただいた方々と一緒に行う。頭を使う、身体を動かす、話ができる。を基本にした内容にする。
- ・飲食担当者は、飲み物（季節に合わせる）、軽食を準備し提供する。一緒に作ることもある。
- ・当日の流れ 挨拶（当日の担当学生の紹介）、飲み物をお出し会話 10 分、レクリエーション 30 分、軽食をお出し会話 15 分程度の流れの 1 時間とする。

学生たちは必要に応じて、レクリエーションの盛り上げ係、会話を通して関係性と図っていく。困りごとなどで必要に応じて、区役所の情報誌をお渡しする。

《4. 取り組みの結果》

学生主催のカフェであるので、学生間での連携や流れを把握する必要がある。運営の 1 時間の中で、軽食を作成する係、脳トレーニングを担当する係、流れを把握してまとめる係、それぞれが分担し、参加された地域の方々とコミュニケーションをとる。

参加者の喜んだ顔がモチベーションとなり、次回に繋げることができた。

令和 6 年度開催は 5 月から開始し 6 月の開催で 2 回実施。平均参加者 12 名（男性 7 名女性 5 名）。学生参加者（1 年生 6 名・2 年生 6 名）。他社会福祉協議会から 2 名。

参加者の方々からは、「楽しかった」「次はお友達をつれてくる」と良い時間だったとの声が多く、脳トレのゲームは「持ち帰ってまた行ってみる」と再度チャレンジしたいと、脳トレに意欲的な方も多かった。

《5. 考察、まとめ》

- ・カフェでの開催内容が毎回固定している。脳トレーニングでは、同じ内容にならないように、種類を増やしていく必要がある。脳トレとしての役割だけでなく楽しめる要素も検討していく。
- ・地域の人気が兼ねなく参加でき、地域住民と学生が出合い交流できる楽しい時間となっている。
- ・参加者が次回の開催日を気にかけて聞いてくださる。
- ・運営スタッフとして、地域の人から開催を期待し、必要とされていることを実感した。今後は地域の人がかフェでの役割を見つけ、気軽に語りあえる場となる工夫が必要。参加者のニーズを引き出し内容に反映していくことが課題である。
- ・地域の方々との交流を増やし、学校が地域のコミュニティの場となるよう継続した活動を行う。
- ・学生の間に地域交流の必要性和実践を学ぶことにより、今後社会に出たときに地域への取り組みに対して抵抗なく進められる専門職となることが期待できる。
- ・早めの開催日程の告知と集客方法の改善により、参加人数の増大を目指す。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

特になし。

《8. 提案と発信》

今後も、地域の中で学校が出来ることを学生と模索し、学校の教育資源・社会資源を地域の方々に提供できるよう取り組んでいく予定とする。多様性のある学生達が皆で参加できるような取り組みを考え、日本福祉教育専門学校がコミュニティの場になることを目指していく。